

高等部 特別活動 単元計画

単元名	高等部祭実行委員会	担当者	
単元期間	10月21日(金)～11月6日(水)	時数	13
単元の目標	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部祭の意義や、全校生徒で協働を図る仕組みづくりについて理解することができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の特質に応じて、どのような協力を行うことが高等部祭の充実と向上につながるか考え、話し合い、決めたことに協力して実践したり、実行委員会の組織を活用した高等部祭の運営上の役割に取り組んだりすることができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の生徒と協力して、高等部祭に協力する活動に取り組むことを通して、学校生活の充実と向上を図ろうとする。 		

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・高等部祭の意義や、全校生徒で協働を図る仕組みづくりについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の特質に応じて、どのような協力を行うことが高等部祭の充実と向上につながるか考え、話し合い、決めたことに協力して実践したり、実行委員会の組織を活用した高等部祭の運営上の役割に取り組んだりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の生徒と協力して、高等部祭に協力する活動に取り組むことを通して、学校生活の充実と向上を図ろうとしている。

時数	主な学習内容	単元目標から		
		知	思	態
1	<ul style="list-style-type: none"> ○メンバーの確認 ・自己紹介 ・委員長、副委員長を決める ○活動内容の確認 ・高等部祭テーマ ・実行委員会企画 ・開閉会式 	○		
1	<ul style="list-style-type: none"> ○高等部祭のテーマについて ・募集の仕方や、生徒への連絡方法について話し合う ・応募用紙を作成する。 ・各学級に連絡をする。 	○		○
1	<ul style="list-style-type: none"> ○テーマの候補を選出する ・応募用紙を集める。 ・集まったテーマから、委員会で3個の候補にしぼる。 ・投票用紙、投票箱の作成、ポスターの制作 ・各学級への連絡、投票用紙の配布 		○	
1	<ul style="list-style-type: none"> ○テーマ決定 ・開票する。 ・掲示物の作成(決定したテーマ) ・各学級への連絡 		○	

6	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会企画 <ul style="list-style-type: none"> ・やりたい企画を調べたり、考えたりする。 ・アイデアを出し合って、生徒会企画を決める。 ・必要な道具などを制作する。 ・原稿の準備をする。 ・各学級への連絡 ○開閉会式の準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・原稿を依頼する。 ・司会の原稿作成、練習 	○	○	○
2	<ul style="list-style-type: none"> ○高等部祭 当日 <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会企画の準備、司会進行など 		○	○
1	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに活動の振り返りを記入する。 ・仲間と感想などを伝え合う 		○	○

高等部 1 年 「ホームルーム活動」 学習指導案

令和 6 年 12 月 12 日

単元名/題材名「自己目標と自己評価を考えよう」

学習名	朝のホームルーム活動	指導日時	6 月 28 日～3 月 24 日
授業者	加藤 順也・只野 毅	指導場所	高等部 1 年生教室
対象児童生徒	1 年 1 組（男子 6 名、女子 0 名）		
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の授業予定と活動の概要を知る。（知識及び技能） ・タブレット端末を操作して頑張りたい授業と自己評価を選ぶ。（知識及び技能） ・その日の授業予定について活動のイメージをもちながら、自分が頑張りたいことを考える。（思考力、判断力、表現力等） ・授業の後に、自己評価を考える。（思考力、判断力、表現力等） ・その日の授業予定の中から、自分が頑張りたいことを自主的に選び、それを達成しようとする。（学びに向かう力、人間性等） 		
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の授業予定と活動の概要を理解して、頑張りたい授業を選ぶ。（知識及び技能） ・その日の授業予定について活動のイメージをもちながら、自分が頑張りたいことを考える。（思考力、判断力、表現力等） ・授業の後に、教師とやり取りをしながら自己評価を考える。（思考力、判断力、表現力等） ・自分が頑張りたいと考えたことを意識しながら、それを達成しようとする授業に取り組む。（学びに向かう力、人間性等） 		
学習活動 (時間配分)	生徒の活動	指導の手立て・留意点	教材・教具
着席	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の席に座る。 ・司会の生徒は前が出る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒 A の場合のみ iPad アプリ「しゃべるんです。」を準備する。 	司会原稿 iPad 
朝の挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・司会に合わせて、朝の挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・司会の進行に合わせて、起立したり着席したりするように促す。 	
出席の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・司会の呼名に合わせて、返事をしたり手を挙げたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・司会の進行に合わせて、起立したり着席したりするように促す。 	
日付と天気の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・司会が係担当を指名する。 ・係担当の生徒は日付と天気を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい発音となるように、ゆっくり話すように促す。 	
予定の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・司会が係担当を指名する。 ・係担当の生徒は今日の予定として、時間割カードを読み上げる。 		

Keynote



抽出生徒について

- ・タブレット端末の操作は慣れており、教師や他の生徒の操作方法を見ると一人で適切に操作することができる。
- ・高等部に進学以降、慣れない活動や経験の少ない活動だと床に座り込んだり活動に取り組めなかったりする。一方で、本人なりに活動の見通しが立ち、自分なりに出来そうであると感じた活動には意欲的に取り組むことができる。そのため、授業や活動の繰り返しにより経験を積むことや、事前に授業の概要を本人に説明して、見通しをもたせることが重要である。
- ・また、他者から称賛されたり注目を集めたりすることを好み、注意喚起行動が時に望ましくない行動として表出されることがある。授業において、どのように活動に取り組むことが望ましいか、事前に教師と確認することで望ましくない行動が減少することが多い。

個別の手立て

- ・その日の授業予定を提示したタブレット端末を見せながら、授業予定と活動の概要について、個別に説明をする。本人が理解できていることを確認できたら、タブレット端末の操作を促し、頑張りたい授業を選択させる。(知・技)(思・判・表)
- ・授業の後に、活動の様子やよかったところを本人と個別に確認をする。その際、具体的なエピソードを交えながら、肯定的なフィードバックとなるようにする。本人なりに頑張れたことや、意識したことを

聞き取った後、自己評価を△、○、◎から選択させる。(思・判・表)

- ・本人が設定した自己目標について、授業担当者と共有し、望ましい行動が見られたら称賛するようにする。担任は授業が始まる前に、頑張りたいことを改めて確認する。(主)

活動の様子

- ・タブレット端末の操作はスムーズに取り組み、自己目標の設定および自己評価は適切に行うことができた。授業において、不適切な行動があった時は、教師とのやり取りを通して、自分から△を設定した。自己評価は概ね◎であった。

生徒の変容と成果

【11月12日時点 ◎：55 ○：1 △：5】

- ・その日の授業予定について理解が深まり、教室の移動や授業準備がスムーズになった。また、頑張りたい授業の選択場面では、「どうしようかな〜。」と迷いながらも、自分で選択することができた。(知・技)(思・判・表)
- ・授業の後に、活動の様子を教師と一緒に振り返りながら、自己評価を選択することができた。教師が、具体的なエピソードを交えながら肯定的なフィードバックをすると、喜ぶ様子が見られた。また、授業内で不適切な行動(お尻を出す、長時間床に座り込んでしまうなど)をした日は、自主的に△を自己評価としていた。(思・判・表)
- ・自分で選択したことを理解しており、教師が「今日は○○を頑張るんだもんね。」と声をかけると、うなずいたり返事をしたりする様子が見られた。また、活動の途中で床に座り込んでしまった時も、「今日はこの授業で、○○を頑張るんだもんね。」などの言葉掛けが切り替えのきっかけになることが増え、活動に再度取り組むことができるようになってきた。(主)

今後の取り組みについて

- ・現在、自己評価のみを行っているため、生徒による主観的な評価となっており、◎の割合が高くなっている。◎がつくことは良いことであるが、自己評価自体が形骸化してしまわない様に、引き続き教師とのやりとりを経てから自己評価を促すようにする必要があると考えられる。
- ・自己評価に併せて教師からの称賛が望ましい行動の強化につながっていると考えられるため、教師間での情報共有を行い、具体的な行動面を称賛できるようにすることが重要であると考えられる。

学部内で検討した成果と課題

- ・毎日の取り組みとして継続して実践できていることで、生徒にとって分かりやすく、安定した取り組みとなっている。また、授業概要を確認することで一日の見通しをもてるようになっている活動である。自己評価の際に、教師とのやりとりがあることでより効果的な実践となっている。
- ・生徒の視点から考えると自分の評価をクラスメイトと共有することができるため、内発的な動機付けが高まる取り組みとなっている。
- ・「これまでの自己評価が蓄積されていることが良い。」という意見があった。今後は、今までの自己評価や生徒自身の頑張りに基づく動機付けを行い、次の学習活動に意欲的に取り組めるようにしたい。

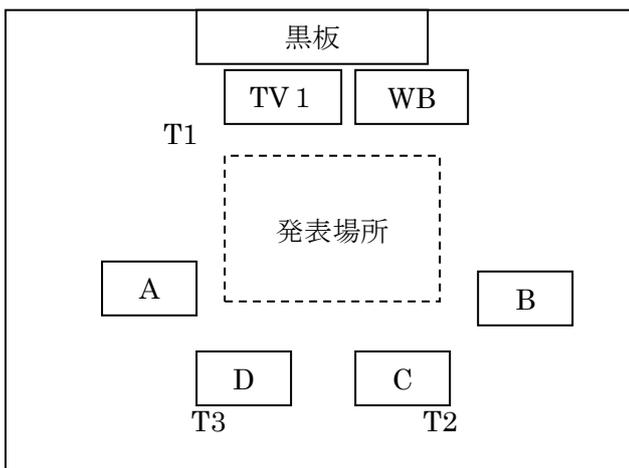
高等部 HR 学習指導略案

単元名	SST		
授業名	ソーシャルスキルトレーニング②	指導場所	2年1組教室
指導日時	令和6年10月10日(木) 10:25~11:15		
全体のねらい	【知識・技能】 ・好ましい人間関係に必要な方法が分かり、行動することができる。 【思考力・判断力・表現力】 ・場面に必要な対応の仕方を考え、自分の意見を発表することができる。 【学びに向かう力・人間性】 ・友達の発表を見て、お互いの考えの違いに気づき、良い点を参考にしようとする。 ・本時で学んだことを日常生活に生かそうとする。		
個別のねらい	目標		評価 (◎○△・記述)
	A	・クイズに対して自分の考え(解答)を発表できる。	
	B	・クイズに対して自分の考え(解答)を発表できる。	
	C	・イラストや教師の言葉掛けを聞いて、正解を選択できる。	
	D	・教師の支援を受け入れて、解答の動作の一部ができる。	
指導分担	T1:高木(生徒A・生徒B) T2:(生徒C) T3:(生徒D)		

【 評価： ◎…達成 ○…部分的に達成 △…目標・見立ての見直しが必要 】

時程	展開	児童生徒の学習活動	教師の支援活動	教材・教具
10:25	1、始めの挨拶	・日直が代表して挨拶する。	・日直を指名して、一緒に挨拶する。	TV1
	2、授業内容の確認	・T1の説明を聞いて、授業内容を知る。	・T1:TVに提示する。授業の流れを説明する。	教師用 iPad
10:30	3、SSTクイズ	・お題を選択して、クイズ内容を聞く。 ①見られ方について3問 ②伝え方について3問 ③関わり方について3問 ・好ましい対応方法を考える。 ・発表する。	・T1:クイズを出題し、解答者を指名する。 ・T2・T3:生徒の実態に応じて、言葉掛けやイラスト提示をする。	生徒用 iPad 生徒顔写真 プリント 筆記用具
11:10	4、結果発表・振り返り	・クイズの結果得点を知る。 ・今後の生活に生かせることを考えて書いたり、イラストから選択したりする。	・T1:結果を発表する。 ・T2・T3:生徒の実態に応じて、言葉掛けやイラスト提示をする。	掲示用プリント
11:15	5、終わりの挨拶	・日直が終わりの挨拶をする。	T1:日直を指名し、挨拶をする。	

【配置図】



【その他】

- ・生徒用 iPad、筆記用具持参

【学習指導要領との関連】

小学部 生活〔才 人との関わり〕〔ケ きまり〕

国語〔A 聞くこと・話すこと〕〔B 書くこと〕

中学部 社会〔ア 社会参加ときまり〕

職業・家庭〔B 情報機器の活用〕

【個別の指導計画との関連】

〔生徒 A〕

- ・重点目標①：他者との適切な関わり方を知ることができる。
- ・日常生活の指導：身だしなみを確認して、正すことができる。

〔生徒 B〕

- ・重点目標：自分の「悩み」や「不安」などの気持ちに気づき、適切な方法で表出することができる。
- ・日常生活の指導：一人で丁寧に歯磨きをすることができる。
- ・自立活動：自分の気持ちについて考え、記号や文字などを使って他者に伝えることができる。

〔生徒 C〕

- ・重点目標①：意思の表出方法を身に付ける。

〔生徒 D〕

- ・自立活動②：二語文の指示を理解し、指示する動作を実行することができる。

高等部 作業学習指導略案

単元（題材）名	解体作業	日時（指導期間）	2学期中
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 必要な工具を自分で判断し、使用して解体することができる。 自分で行うことが難しいときに教師に相談することができる。 作業の準備、片付け、清掃をリーダーの指示を聞いて終えることができる。 		
対象児童・生徒	3学年4名 2学年3名		
指導者	2名		

本時の指導（展開）

時間	児童・生徒の活動	教師の活動/配慮事項（教材・教具）
開始前	<ul style="list-style-type: none"> 倉庫から解体作業に必要な道具を運び、教室内の所定の位置にセッティングする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に頼まれてから倉庫の鍵を開ける。
10:40	<ul style="list-style-type: none"> 作業教室に集合。 ※リーダーが時間を見て始める。 はじめのあいさつをする。 今日の作業内容を確認する。 教師から 作業開始の号令 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が時間を見ながら開始できるように見守り、必要最低限の言葉掛けをする。 作業の注意点や前回の反省を確認する。
10:45	<p>○解体作業</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が担当する家電などを解体する。 解体に必要な道具を自分で判断して使用する。 仕分けするものを「金属」「コード」「プラスチック」「基板」に仕分けする。 担当の家電を終えたら、自分で倉庫に行き、自分が解体できそうな次の家電を持ってくる。 解体方法や仕分けの方法がわからないときは、教師に相談する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の相談があったときに、一緒に適切な工具を伝える。 生徒の相談があったときに、一緒に適切な仕分け場所を伝える。 生徒の相談があったときに、一緒に解体できそうな家電を伝える。 生徒から相談があるまでは、教師からは伝えない。 解体方法や仕分けの方法がわからないような様子が見られるときには、どうしたらよいと思うかを聞きながら、相談できるように誘導する。
11:40	<ul style="list-style-type: none"> リーダーの指示を聞いて、倉庫へ解体作業に必要な道具を運ぶ。または、教室内の清掃を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師もリーダーの指示があったときに、片付け、清掃を行う。
11:55	<ul style="list-style-type: none"> 作業日誌を記入する。 記入後に教師から作業の評価をもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> よかった点と改善点を伝える。 自分で考えられる生徒については、よかった点と改善点を話すように伝える。
12:00	<ul style="list-style-type: none"> 教師から作業の反省を伝える 終わりのあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 次回の作業のよかった点や注意点、改善点を伝える。